

事務事業ID							部 長		課 長		係 長		担当者							
2469																				
令和04年度							事務事業マネジメントシート													
事務事業名							歴史を活用した地域創生事業							担当課		教育委員会教育部生涯学習課				
政策 体系	政 策		2		豊かな心を育むまちづくり					担当係		文化財係								
	施 策		4		文化財の保護と芸術文化の振興					事業 区分	事業期間		平成28年度		～		令和6年度			
	基本事業		1		文化財の保護と保存						市単独事業・国県補助事業			市単独事業						
予算科目			会計		款	項	目	大 事 業					実施形態	直 営						
			一般会計		10	5	3	文化財保護費												

PLAN（計画）

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。		
	中間	①対象 （誰、何 に対して 行うか）	市民	①意図 （どのよう になること を目標とす か）	市民が、伊達市の特色ある歴史に触れられるよう伊達市所蔵資料を適切に管理し、公開・各種事業の展開へとつなげる。
	初期	②①になる ために必要 な状態	文化財収蔵・公開施設（仮称）を通して市民が郷土に誇りを持てるよう資料の収蔵及び公開を推進する。		

指標	区 分	指 標 名 （意図の達成度を表す指標）	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	活動指標	収蔵公開施設の設置件数	件	目標値	－	－	－	－	1	1
				実績値	－	－	－	－	0	0
	活動指標	整理・収蔵資料点数	点	目標値	－	－	－	－	200	200
				実績値	－	－	－	－	1,000	1,000
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】											
活動・アウトプット	事業概要	旧山舟生小学校を活用した文化財収蔵施設への改修。 梁川分庁舎4階フロアを活用した文化財公開施設への改修。 上記の文化財収蔵・公開施設への適切な伊達市所蔵資料の整理収蔵。									
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 旧山舟生小学校を活用した文化財収蔵施設の改修工事実施設計を完了させた。 梁川分庁舎4階フロアを活用した文化財公開施設の改修工事実施設計に着手した。同施設の展示工事実施設計を完了させた。									

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由			平成18年の合併以来、所蔵資料は、旧町単位で管理している状態となっている。資料の一括管理・整理・目録作成の作業を行い資料公開へとつなげていく必要がある。 文化財公開施設の機能を明確にすることにより、市内に点在する魅力ある文化財をつなげまちなか回遊の起点的施設へ位置付けるため。							
	根拠法令・要綱等			伊達市文化財保護条例 伊達市保原歴史文化資料館条例			関連する個別計画		伊達市立博物館（仮称）整備等基本構想		
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）			市内の伊達市所蔵資料については、旧町単位での管理となっており、収蔵環境の改善等も必要となる。環境改善を目的に文化財収蔵施設の設置が必要であり、適切な収蔵のものの活用・公開のための施設設置は、資料活用の観点から有効な手法となる。							
				年度単位	29年度 （実績）	30年度 （実績）	01年度 （実績）	02年度 （実績）	03年度 （実績）	04年度 （実績）	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円					0	0	
			都道府県支出金	千円					0	0	
			地方債	千円					0	12,000	
その他			千円					0	650		
一般財源			千円					5,170	0		
		事業費計	千円					5,170	12,650		

事務事業 ID	2469	事務事業 名	歴史を活用した地域創生事業	所属 課	教育委員会教育部生涯学習課
------------	------	-----------	---------------	---------	---------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	伊達市文化財収蔵公開施設整備基本計画に基づき、旧山舟生小学校、梁川総合支所4階フロアの改修工事等実施設計に着手した。今後は、本設計に基づき改修を行うと同時に、施設オープンに向け運営体制の検討、所蔵資料の移管、展示準備を進める。
課 題	設計額に対し予算額が不足している。予算内で事業完了できるよう設計内容の調整などを行う。 施設改修後に円滑に資料収蔵を行えるよう収蔵資料の整理を計画的に進める必要がある。また、収蔵後の活用に備えるため適切な学芸員の配置及び持続可能な運営に努めるため人材の育成が必要となる。
対 策	各施設の人員配置について検討を進め、円滑な施設開館に備える。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	伊達市の魅力ある歴史に触れるための基本施設となる。今後は、計画的な施設改修を行い収蔵・公開を進めていく。
------	----	------------------	--

事務事業ID				部 長		課 長		係 長		担当者	
2178											
令和04年度				事務事業マネジメントシート							
事務事業名				文化財維持修繕事業		担当課		教育委員会教育部生涯学習課			
政策体系	政 策	2	豊かな心を育むまちづくり			担当係		文化財係			
	施 策	4	文化財の保護と芸術文化の振興			事業期間		平成23年度 ～ 令和06年度			
	基本事業	1	文化財の保護と保存			事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
予算科目		会計	款	項	目	大 事 業		実施形態		直 営	
		一般会計	10	5	3	文化財保護費					

【PLAN（計画）】					
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。		
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	東日本大震災で被災した指定文化財	①意図（どのようになることを目指すか）	被災した文化財を復旧させ後世に継承する。
	初期	②①になるために必要な状態	復旧した文化財数		

指 標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	アウトプット指標	保存・管理に関わった文化財数	件	目標値	1	1	1	1	1	1
				実績値	0	1	1	1	1	0
	活動指標	被災文化財修繕件数	件	目標値	15	18	21	24	27	30
				実績値	15	18	21	24	27	27
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】			
活動・アウトプット	事業概要	東日本大震災により被災した文化財の修理（仏像33体の修繕：令和7年度に終了見込み）	
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 被災した文化財所有者に対し補助金を交付する。 修理依頼先が業務多忙につき修理請負が難しく年度内の事業完了の目途が立たないことを理由に、R4年度については事業実施を見送ると補助事業者より申し出がある。実績はR3年度末から変更なく、仏像33体中27体の修繕が完了している。	

【現状把握】										
現状・インプット	事務事業を開始した理由	東日本大震災では市内の多くの文化財が被害を受けた。これらを健全に維持し後世に継承するため必要な修理を実施する。								
	根拠法令・要綱等	伊達市文化財保護条例 伊達市文化財保存事業補助金等の交付等に関する要綱		関連する個別計画						
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	大部分の被災文化財は震災直後からの復旧、修理作業により概ね現状復旧や応急処置は終了しているが、今だ手つかずの状態のものもある。								
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0
その他			千円	0	0	0	0	0	0	
一般財源			千円	0	500	500	500	500	0	
事業費計			千円	0	500	500	500	500	0	

事務事業 ID	2178	事務事業 名	文化財維持修繕事業	所属 課	教育委員会教育部生涯学習課
------------	------	-----------	-----------	---------	---------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	問題なく事業遂行できるまでに文化財所有者、修理業者間で実施体制が確立している。
課 題	指定文化財の価値を保つ修理を行うため修理依頼先が限定され、依頼先の都合により事業停滞することがある。
対 策	所有者と連絡を密にして課題等の状況把握をこまめに行い、問題解決に向け必要に応じ指導を行う。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	東日本大震災により被災した文化財の修繕を目的とした事業であり、対象文化財の修繕が完了した段階で、本事業は廃止する方向で検討を進めている。
------	----	------------------	--

事務事業ID							部 長		課 長		係 長		担当者			
1444																
令和04年度							事務事業マネジメントシート									
事務事業名			文化財保護事業					担当課		教育委員会教育部生涯学習課						
政策体系	政 策		2	豊かな心を育むまちづくり					担当係		文化財係					
	施 策		4	文化財の保護と芸術文化の振興					事業区分	事業期間				～		
	基本事業		1	文化財の保護と保存						市単独事業・国県補助事業			市単独事業			
予算科目			会計		款	項	目	大 事 業			実施形態	直 営				
			一般会計		10	5	3	文化財保護費								

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。		
	中間	①対象 （誰、何に対して行うか）	1. 伊達市内の指定文化財件数 2. 伊達市の文化財に親しんだ市民の割合	①意図 （どのようになることを目指すか）	1. 伊達市指定文化財の価値を顕在化させる。 2. 伊達市内の指定文化財の本質的価値を理解し、伊達市固有の歴史に触れる。
	初期	②①になるために必要な状態	1. 伊達市指定文化財の価値を顕在化させ、その価値によっては、市固有の歴史観のみならず福島県や国の歴史観を示すものもあることから伊達市指定から福島県指定・国指定化等を図る 2. 伊達市固有の歴史に触れることにより、ふるさとを愛する心や地域の一体感を育む。		

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	活動指標	市内の市指定文化財（合計）	件	目標値	118	120	117	117	117	121
				実績値	119	116	117	117	117	119
	アウトプット指標	歴史文化資料館入館者数	人	目標値	6,500	6,500	6,500	6,500	7,000	7,000
				実績値	5,266	6,684	4,600	2,311	2,650	3,744
				目標値						
				実績値						

DO (実施)

活動・アウトプット	事業概要	指定文化財等の保護・管理・記録を行う。 指定文化財保持団体の育成、指定文化財の管理及び修繕の補助。 H25年度からは国登録文化財「伊達地方の養蚕道具」（2,530点）の整理作業を進めてきた。平成30年度には「伊達の蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具」として国の重要有形民俗文化財の指定を受けている。R2年度から東日本豪雨で被災した文化財整理、R3年度から福島県沖地震で被災した文化財修理を進めている。									
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） R元年度東日本豪雨で被災した文化財（古文書・民具）の整理作業 市指定文化財保持団体の育成、指定文化財の管理及び修理の補助 R3・4年福島県沖地震で被災した文化財の修理補助									

現状把握

現状・インプット

事務事業を開始した理由			文化財保護法制定（昭和25年）を契機に各自治体固有の歴史観を保護することを目的に全国的に進められてきた事業である。本市についてもこの法令に基づき伊達市文化財保護条例を制定し、文化財保護行政を推進している。							
根拠法令・要綱等			伊達市文化財保護条例 伊達市文化財保存補助金等の交付等に関する要綱			関連する個別計画				
事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）			伊達市全体として文化財の一括管理を実施することが望ましいが、合併以前の旧町単位で文化財の保管を行っているのが現状である。このような中、平成20年に養蚕関係用具が国の登録文化財となり、平成25年度からは、養蚕用具の一括管理及び整理作業を進めてきた。平成30年度には国の重要有形民俗文化財の指定を受けている。今後は、養蚕用具の整理作業と並行し、東日本豪雨により被災した民具の整理作業、福島県沖地震で被災した文化財修理を進める。							
			年度単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (実績)	04年度 (実績)	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	3,000	0	0	0	0	0	
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	13,068	27,000	0	
		一般財源	千円	19,734	23,338	22,818	8,687	5,839	20,382	
事業費計		千円	22,734	23,338	22,818	21,755	32,839	20,382		

事務事業 ID	1444	事務事業 名	文化財保護事業	所属 課	教育委員会教育部生涯学習課
------------	------	-----------	---------	---------	---------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	●東日本豪雨で被災した文化財の整理作業が着実に進んでいる。新たな収蔵庫も完成し、文化財の健全な保存・管理もできつつある。 ●福島県沖地震で被災した文化財の修理補助事業が着実に進んでいる。R5年度に完了予定。
課 題	●補助金交付団体数が例年一定数を保っていることから見ても、修理を必要とし、今後の保存にも支障をきたす恐れがある文化財が常在していると判断できる。これらについて、いち早く保護保存の措置をとることが急務である。 ●保護保存の措置が取られた文化財数については着実に成果が出つつあるが、今後は市民の文化財に対する関心を更に高めることが課題である。
対 策	●国指定史跡の追加指定が大きく報じられたこともあり、文化財や歴史に対する市民の興味や関心が高まりつつある。これを好機と捉え、企画展や各種広報物により文化財の価値などについて更に周知を図る。 ●普段から情報収集に努め、文化財保護保存の要望に対し迅速に対応できるよう努める。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	東日本豪雨の被災資料整理も順調に進んでおり、今後はこれら整理作業の済んだ資料の保存・活用を進める必要がある。 また、R3・4年福島県沖地震の被災文化財のほか経年劣化の著しい文化財もあるため、これらの修理を継続して行う必要がある。
------	----	------------------	--

事務事業ID										部 長		課 長		係 長		担当者			
1447																			
令和04年度										事務事業マネジメントシート									
事務事業名				埋蔵文化財保護事業						担当課		教育委員会教育部生涯学習課							
政策体系	政 策		2	豊かな心を育むまちづくり						担当係		文化財係							
	施 策		4	文化財の保護と芸術文化の振興						事業区分	事業期間		H18		～		R4		
	基本事業		1	文化財の保護と保存							市単独事業・国県補助事業				国県補助事業				
予算科目				会計		款	項	目	大事業		事業区分	実施形態				直営			
				一般会計		10	5	3	埋蔵文化財保護費（補助）										

【PLAN（計画）】

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。		
	中間	①対象 （誰、何 に対して 行うか）	伊達市内の埋蔵文化財	①意図 （どのよう になること を 目指すか）	伊達市内の埋蔵文化財の適正な管理に努め、保護措置を講ずる。
	初期	②①になる ために 必要な状態	埋蔵文化財が適切に保護されている。		

指標	区 分	指 標 名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
	活動指標	市内の国指定史跡数	件	目標値	2	3	3	3	3	3
				実績値	2	2	3	3	3	3
	活動指標	開発等に係る調査件数	件	目標値	15	15	15	15	15	15
				実績値	20	22	15	7	19	16
				目標値						
				実績値						

【DO（実施）】												
活動・アウトプット	事業概要	「埋蔵文化財包蔵地」の調査及び保護・保存 ①国史跡化を目的とした梁川城跡の総合調査報告書の作成業務（国庫補助事業） ②その他開発にかかわる調査 ・H29年度に梁川城跡、R4年度に堂庭遺跡等の調査報告書を刊行した。 ・R1年に梁川城跡が「伊達氏関連遺跡群」として国の史跡指定を受けている。R5年には堂庭遺跡等が範囲追加されている。										
	主な活動	令和04年度実績（実施した主な活動） 堂庭遺跡・岩地蔵遺跡の伊達氏梁川遺跡群への追加指定 開発に伴う本発掘調査（1件：長倉館跡） 開発に伴う試掘調査（16件）										

【現状把握】

現状・インプット	事務事業を開始した理由		文化財保護法制定（昭和25年）を契機に全国的に実施されてきた文化財保護業務となる。本市についても文化財保護法に基づき開発等により失われる恐れのある埋蔵文化財については、発掘調査を実施し、記録保存の対応を実施している。							
	根拠法令・要綱等		文化財保護法 福島県文化財保護条例 伊達市文化財保護条例			関連する個別計画		史跡及び名勝霊山 保存管理計画書 史跡宮脇廃寺跡 保存活用計画書		
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		東日本大震災等の影響による開発件数の増加に伴い、対応件数は増加傾向にある。また、伊達市固有の歴史を色濃く残す梁川城跡などの遺跡については、国史跡化を図るための内容確認調査を実施している。							
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	3,570	2,300	3,550	2,606	4,000	3,000
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
地方債			千円	0	0	0	0	0	0	
その他			千円	0	0	0	0	0	0	
一般財源			千円	14,946	15,967	12,615	14,395	15,110	15,912	
事業費計			千円	18,516	18,267	16,165	17,001	20,367	18,912	

事務事業 ID	1447	事務事業 名	埋蔵文化財保護事業	所属 課	教育委員会教育部生涯学習課
------------	------	-----------	-----------	---------	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 （目指すべき状態への 進捗度）	梁川城跡については、令和元年に「伊達氏梁川遺跡群」として国史跡化を果たし、堂庭遺跡（梁川八幡宮）・岩地藏遺跡についても令和4年度に追加指定がなされている。今後は、史跡整備保存活用事業との連携を適切に実施し歴史公園として整備を行うことが必要となる。
課 題	今後は、史跡及び遺跡の価値をわかりやすく発信するための事業が必要となる。 また、開発件数が増加傾向にあることから、本発掘調査を適切に行う環境整備が必要となる。
対 策	遺跡の発掘調査に関する現地説明会の開催や、資料館での展示、歴史講演会等をととして伊達市の魅力ある歴史を継続的に発信する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	合併後、宮脇廃寺跡・伊達氏梁川遺跡群の国史跡を進めてきた。今後は、史跡整備保存活用事業と適切に連携し、史跡整備の基本方針となる「保存活用計画」の策定が急務となる。 近年、災害の頻発により個人住宅建築を中心に開発行為が増加する傾向にあり、試掘調査件数の増加傾向にあることから、調査体制の充実が必要と考えられる。
------	----	------------------	---

事務事業 ID	1473	事務事業 名	歴史資料館管理運営事業	所属 課	教育委員会教育部生涯学習課
------------	------	-----------	-------------	---------	---------------

【**CHECK/ACTION**（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	令和3年度の来館者数は、コロナウィルス感染症の影響によりイベントの実施を制限したため減少傾向であったが、令和4年度は、復調の傾向を見せている。今後は、最終目標へ状態を近づけるため、継続的な事業展開等が必要となり、展示や各種講座等の事業について質を向上させていく必要がある。
課 題	質の高い展示や各種事業を展開するためにも収蔵資料の再整理を実施し更なる活用を図る必要がある。また、収蔵庫の整理を行い収蔵品の適切な管理を進める必要があるため令和4年度は、資料の整理を継続して実施している。
対 策	継続的な収蔵資料の再整理を進める。新しい生活様式を守りながら、資料館を活用し市民が伊達市の歴史文化に親しむ方法を検討する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	本年度は、後半イベントの実施等も再開し、来館者数は復調傾向にある。展示内容については、伊達市に密着した内容構成をとり、伊達市でしか実施できない特徴的な展示となっている。今後も伊達市の歴史的魅力を発信する展示を継続していく必要がある。また、古文書等の歴史資料の整理も進めており、継続した事業展開が必要と考えられる。
------	----	------------------	--

事務事業ID							部 長		課 長		係 長		担当者				
1459																	
令和04年度							事務事業マネジメントシート										
事務事業名			ふるさと会館施設運営事業					担当課		教育委員会教育部生涯学習課							
政策体系	政 策		2		豊かな心を育むまちづくり					担当係		文化振興係					
	施 策		4		文化財の保護と芸術文化の振興					事業区分	事業期間				～		
	基本事業		2		芸術文化活動の推進						市単独事業・国県補助事業		市単独事業				
予算科目			会計		款	項	目	大 事 業			実施形態	直 営					
			一般会計		10	5	5	ふるさと会館施設管理費									

【PLAN（計画）】				
目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる	
		基本事業の目的	市民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、幅広い世代が主体的に芸術文化活動に取り組める環境づくりを推進します。さらに、多様な芸術・文化を魅力ある企画や情報で市民へ広く提供し、あわせて市民文化団体の自主活動を支援します。	
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	市民	①意図（どのようになることを目指すか） 市民の文化意識の高揚
	初期	②①になるために必要な状態	芸術文化に関心を持つ市民層の拡大と文化事業の展開	

区 分	指 標 名 （意図の達成度を表す指標）	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
指 標	活動指標	自主文化事業件数	件	目標値	5	10	10	10	10
				実績値	5	8	8	6	9
	活動指標	施設の利用件数	件	目標値	600	700	800	800	800
				実績値	703	657	658	340	539
				目標値					
				実績値					

【DO（実施）】	
活動・アウトプット	事業概要 施設の維持管理を行う。 市民に文化芸術へ触れる機会を提供するため、各種事業を実施する。
	主な活動 令和04年度実績（実施した主な活動） 宝くじ文化公演事業「岸谷香 KAORI PARADISE」の開催。 ジャズコンサート（「MDDフロアJazz」「MDD Jazz Night」）の開催。 寄席（「MDDフロア寄席」「MDD初笑い寄席」）の開催。 邦楽コンサート（「MDD十五夜コンサート」）の開催。 特定非営利活動法人MDDスタッフとの共催事業の開催。 「MDDスタッフ」育成による利用者や市民が行う文化事業の支援。

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		ふるさと会館の開館に伴い実施されてきた事業である。市内の芸術文化発表の場、市民に芸術文化に触れる機会を提供するための場として機能させるため、行っている。							
	根拠法令・要綱等		伊達市ふるさと会館条例 伊達市ふるさと会館管理規則		関連する個別計画					
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）		首都圏への一極集中の流れが続く中、人口減少、趣味の多様化やコロナウイルス感染症拡大の影響等も重なり、魅力的な自主事業を企画・開催しても、10年以上前のような集客が見込めなくなっている。							
			年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
			都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
地方債			千円	0	0	0	0	0	0	
その他			千円	4,241	4,857	4,050	2,195	3,730	4,739	
一般財源			千円	19,673	15,643	19,583	21,314	19,539	25,847	
事業費計		千円	23,914	20,500	23,633	23,498	23,252	30,586		

事務事業 ID	1459	事務事業 名	ふるさと会館施設運営事業	所属 課	教育委員会教育部生涯学習課
------------	------	-----------	--------------	---------	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への 進捗度)	一世を風靡したガールズバンド「プリンセス プリンセス」の元ギター・ボーカルである岸谷香さんのコンサートを開催したことにより、普段の利用者とは異なる層の多くの市民に来館してもらうことができた。 主催事業以外にも、MDDスタッフとの共催により、市民に様々なジャンルの芸術文化鑑賞の機会を提供することができた。
課 題	「岸谷香コンサート」は宝くじの助成事業を活用して実施した。過去に開催した大きなイベントも民間団体の助成を受けて実施したものであり、市独自予算で事業を展開するには限界がある。 「MDDスタッフ」の協力によりイベント運営ができていますが、新入会員の減少や会員の高齢化等により、協力できるスタッフは限られている。
対 策	様々な助成金を活用して事業資金確保に努めることで、地方ではあまり見ることのできない質の高い事業の開催を継続し、市民が文化に親しむ場を提供する。 地元の高校の部活動(演劇部、放送部等)や専門学校等と連携し、裏方や舞台管理に興味のある若者を発掘する。 業務委託や指定管理者制度の導入を検討し、市民がより一層芸術文化に触れる機会を創出できるように努める。

【評価結果】

総合評価	改善・見直し	今後の事業全体の方向性やその内容	業務委託や指定管理者制度等への移行を考慮し、各種事業へ民間活力を取り入れることで、よりよい住民サービスを提供できるようにする。
------	--------	------------------	--